

21PO-am381S

児童のライフスキルの形成に焦点を当てた薬物乱用防止教室の実施

○佐藤 礼菜¹, 堀内 沙莉¹, 庄野 あい子¹, 赤沢 学¹ (明治薬大)

【目的】WHOにより定義された「ライフスキル」の形成は、薬物乱用防止教育において、有効であることが示されている。本研究では、ライフスキルに着目し、従来の「知識中心型」ではなく「行動変容型」の概念を取り入れた薬物乱用防止教室を作成することを目的にした。【方法】小学校6年生を対象に、90分間の授業を作成した。授業を作成する上で、文献調査を実施し、ライフスキルが実際の教育にどのような形で取り入れられているかを確認した。更に、教科書の内容及び学習指導要領を反映させた上で草案を作成し、小学校の教員と打ち合わせによって小学生に適切なものかどうか確認しながら、内容の修正を行った。【結果】授業は、演劇形式で行った。具体的な劇の内容としては、小学生の主人公が、日常生活の中で酒・タバコ・薬物といった危険を及ぼすものに出会い、周囲からの助言を得ながら、それらを回避する物語を作成した。また、教科書の内容を反映する上で、知識の提供も必要であると考え、劇の途中でスライドを用いた講義を行った。【考察】演劇の形式を用いることで、ライフスキルの要素を視覚的に示すことができた。一方、教科書に示された内容を物語の中に全て納めることはできなかった。そこで、スライドを用いた講義の形式を組み入れることで、知識の面を補った。また、限られた時間内の授業であった為、ライフスキルを形成する複数の要因の中で、ライフスキルの基盤となるセルフエスティーム(「健全な自尊心」)の形成に重点を置き、授業を作成した。児童のライフスキルの経時的な形成を目指すには、複数回に渡って授業を行うべきだと考えた。実施したことによる一時的なライフスキルの変化の評価は、別報に記載する。